

抱え上げない介護技術セミナー(第3部) H29.10.22

理解度	1. 理解しにくかったこと	2. 実践するための取り組み	3. 具体的な計画	5. 介護を変えるために必要と思うこと	6.その他
1	4 理解はできたが、実技が上手くできなかった。狂い返しを行うことが必要と感じた。	現状、未実施	施設全体で取り組む	職場殿伝達、実技講習を行う。日々の業務へ取り入れる。	
2	5		職場での何の道具が必要なのかをまず考えていきたいです。ただ道具をそろえるのではなく、どう必要なのかを知り、現場に入れていきたい。	どう地域に広めるのかが必要なのかと思います。まずは、職場、現場の皆に情報を共有、理解してもらうところからのスタートです。	
3	4		院内研修会での広報をして、来年度に「抱え上げない介護技術」の研修会を実施していく。今年度は内容がもう決まっている。5～10分程度時間をもらう。	多職種の方に知ってもらうことが重要。	復習会が大事
4	3	職場、ふじの木園の取り組み。地域、なちゅは福岡。	地を固める	花火大会みたいな研修をしない事	
5	3	今は職場では実践できていません。個人レベルでしか行えていません。	個人レベルでは職場に広める事。なちゅは福岡としては、モデル施設を作って地域を変えたいと思います。	簡単ではありませんが、意識を変えたいと思います。	サイボーズの運用は自発的なネットワークとして考えています。「やってあげている」「してさしあげている」という気持ちで、活動をしていくと、人心が離れていくと思います。でも、本当に大変な役割を担っていただきありがとうございます。
6	4	スライディングボード、シートを導入し、利用者個々のプランを多職種で検討し、実践しているが、手技の統一がむずかしい。個々のスタッフの理解、技術のバラつきが大きい。	重度の要介護者(全介助)も増加しているので、個々の利用者の疾患・心身機能に合わせた移行技術、福祉用具(車いすなど)の見直しを多職種で見直したいという希望が介護スタッフからあり、近日中に始める予定(皮膚トラブル防止も含めて)	まずは院内のスタッフ、特に管理職に「抱え上げない介護技術」を知ってもらうことが必要と思います。	
7	4	使いはじめているけど、上手く使えてないのが現状です。「楽なものなんだ」「伝えるんだ」と思ってもらえるように今は現場で実際の場面で伝えています。	OT協会の新人研修(支部ですが)で、年度初めに行っていくことを予定していく。	気持ちを変えてく。	
8	4 立ち上がり移乗の体重(自分のかけ方)	介助グローブ、スライディングシートの活用	福祉用具の購入検討	スタッフの意識変化のきっかけ作り	
9	5 力を入れるという、抜くところの塩梅が難しいです。	研修会の開催。福祉用具の無料貸し出し。	まだ「抱え上げない介護」をするのが、一人のみのパターンの施設文化変更のすすめ方やそれが2人の時、3人の時などのパターン別のコンサル内容を考えてみようと思います。	強烈なリーダーシップを持つ人、やめない人へのサポート。情報発信。	
10	4	現在、新しいスタンディングリフトのデモ機使用中。	トイレ、入浴の下衣着脱で福祉用具の活用、実用化。	トップが抱え上げない介護に関する話を聞いてもらう。	
11	4 デモンストレーションが見えにくい時がありました。できれば部屋の真ん中で見せていただけたら見やすいかも		職場内でまずは同じ職種のスタッフに伝達できればと思います。	施設同士の連携。	
12	4		職場のスタッフにレクチャーできるようになりたい。		
13	3		自分自身の知識を高める為に研修会に参加していく。		
14	3 体の体重のかけ方が難しい。長年のクセを治すのは時間がかかる。	ボードの活用。リフト活用。			

15	4	教え方(言葉)に詰まることある。	まずは自事業所内で、10月18日に体の使い方、基礎を行いました。11月末に近隣のステーション、ケアマネを招待して研修会を実施します。	一人が3人、3事業所へ伝える。地域に「抱え上げない介護技術」を伝える。	共通言語で意識を共有できる仲間づくりが必要だと思います。	
16	4	まだまだ技術が未熟なので	今、チームを使って研修をする予定。	かかえない看護、介護をするため技術指導と共にどのようなことをするか計画中。	今までの看護介護を見直し、職員の意識を変える。環境を整える。	腰痛は予防できると思いますが、肩や膝が痛くなりそうな気がします。病院の床に膝をつくのは少し抵抗がある。
17	5			ケアマネージャーの広げよう、知ってもらおうとがんばってます。嘉麻市、飯塚市のケアマネ連絡会にアプローチ、研修会を計画。	知らせることが必要	
18	4	技術が7割くらいは習得できたが、完璧ではない。	月に1度の施設全体会議で職員に研修を予定しています。	パンフレットの活用。研修会の参加。職場での研修会を定期的に行う。	研修会でのスキルアップ。	
19	3		福祉用具の教室を来年度開催予定。	看護協会、移乗研修会。その他、施設、病院での研修会。	企画ありきだと思います。	
20	4	技術の理解	職場内、特定職種への抱え上げない介護の勉強会	他職種への「抱え上げない介護」参加の呼びかけ。病棟内勉強会から院内勉強会。	「抱え上げない介護」について知識技術を広める。賛同者を増やす。関わりのある施設(病院)へ情報(パンフレット)の配布	
21	5		研修後の報告のみ			
22	4		職場で、スライディングシート、ボードを使用したトランスファーを導入しています。	技術の定着。現場で指導できる人材の育成。	管理者の理解。現場の意識改革。	
23	5		チーム作り、活動を始めた。	毎月第1・2水曜日と決め、全スタッフへの伝達ができるようにした。その時に行う内容も1年かけて進行中。	業務の流れの中で、抱え上げない介護をどう伝え、意識を変えていくかを考える事。一人一人の考えをどう変えるか。まずはそこが必要。	
24	5		リーダーを中心に抱え上げない介護について、どのような事かの理解を得るために勉強会を行っている。	毎月降り入れやすい技術から勉強会を行っていく。利用者にも合った方法を選別していく。	スタッフの意識を変える事だと思います。抱え上げることによるリスクを理解を得たい	
25	5		職員研修や理学療法士会の中で伝えていく。	職場の在宅医療推進事業の中で、スケジュールに組み込む。関連施設含め、職場の中で仲間づくりをする。院内広報誌へ掲載していく。	マスコミなどへのアピール。地域ケア会議でのPR。	
26	5		ノーリフトが定着して5年。スキルアップ、ステップアップのための活動をしていく予定です。	拘縮を減らすための研修	地域への発信	新しいメンバーの方と一緒に頑張っていきたいです。
27	4	原則や原理はわかったのですが、体形や状態によって同じようにできるかが心配。	特になし	特にまだ分からない。今から考えたい。		
28	5		現在はありません。	職場の職員同士で考えていきます。	まずは抱え上げないと意識することが重要だと思います。	ありがとうございました。
29	2	自分の体の動かし方	学習会(老健内)	病院全体に知っていただけるよう、ミーティング内での紹介	まずは、「抱え上げない介護技術」というものがあることを知っていただく事	
30	4					
31	4	移乗動作が良く理解できていなかった			定期的な勉強会	
32	4	移動動作介助		まずは、職場スタッフへの介護技術伝達や研修会参加への誘い。	技術の理解	
33	4	繰り返し行って体で慣れていかなければと思った	新人研修で実技指導を行う	抱え上げない介護技術の復習	ビジョンの提示	
34	5		今の所は行っていません	まずは知識の共有、それから技術の共有を行おうと思っています。		

35	3	ボードの位置などがしっかり理解できていない	体重がある方などにグローブを使用する場合もあり。	自分自身ともう一人など、少しずつ知識を増やしていく。		
36	4		職場では開設時よりリフトなど機器を導入している。ノーリフティングポリシーを浸透できるよう保田先生を招き、勉強会を開催し地域に広めようとしている。また、職場で知識技術の均一化を図る為、試験を実施している。研修に参加しコーディネーター育成中。	地域に広められるように今回扱ったメンバーがノーリフティングポリシーについて同じ内容(知識技術)を伝えられるよう12月初めに勉強会開催する。	コーディネーター等指導できる人を育成し、知識、技術を広めていく。	
37	4			一人一人がきちんと理解していくことで他の方に教えられるようになるので、まずは一人一人が理解していくこと。	どのような使い方でその道具を使うのか、その道具を使うことによってどのような支援ができるのかななどを説明できるようにすること。	
38	4		他職員に伝えられるよう、知識、技術の習得に取り組んでいます。	職場全体での勉強会を行う予定です。		
39	4			スライディングボード、グローブ等の福祉用具を正しく使っていきたいと思う。体重移動などをきちんとしたいと思います。	個人のスキルアップを目指し、各職場のスキルアップ必要だと思います。	今日は本当に良い体験ができました。
40	4		ノーリフトケアを職場では取り組みを行っている。各職能団体に抱え上げない介護の学習会を実践している。	地域推進を目指し、コーディネーターを養成し、伝える事の出来る人達を作るため、定期的な学習会を行う。	考え方の統一。	
41	4	1つの項目ごとのポイントがまだ理解不十分でした。	また明日から取り組みます。	一か月で自分の練習を行う。次に施設内の研修を行う。(1つの項目から)	リーダーを増やして施設で取り組むところを増やす。	
42	5		ポジショニンググローブを使用し、ポジショニングのアドバイスをを行っている。	塚原PTの尽力により、トランスファーボードの購入が決まっており、使い方が分からない職員さん達に説明ができるようになり、スタッフの意識を変えていく。	先ほど下元先生から話があったように、情報、知識を変えていく努力をする。	
43	4		スライディングシートを使用し移乗を行っています。	スライディングボードでの移乗を病棟に伝達していく	周知への理解伝達方法の工夫	
44	4			自分は養成校に立場を置くものである、チームの力を借りながら、最終的には本校のカリキュラムに位置付けてみたい。	介護は科学的であることを広めていくこと	仲間が出来て良かったです。
45	4		県との予算審議、管理者向けの研修企画、コーディネーター養成。	来年度県主導でのノーリフティングケア実現。	コーディネーターを養成し、各施設に出向することで普及啓発をはかるとともに、地域の一般県民に向けての研修を行う。	
46	5		スライディングシートを使用したり、ボードでの移乗にはまずは取り組みスタッフに伝達していく。	今日学んだ事をスタッフに伝達し、スタッフの腰の負担を減らすよう広めていき、リフトの導入をしてもらえよう、声かけとスタッフとの考え方を伝えていく。	まずは情報発信していく。スタッフの考え方を換え、スキルアップの為の勉強会を行っていく。	感動しました。一人の力は小さいですが、いろんな方に伝えていけたらいいなと思います。
47	2	一つ一つの項目の時間が短かった	研修会に参加	施設に伝える		
48	2	上手く伝えられていなかった	シート、グローブを使う	チラシを配布	定期的な情報発信	
49	4		グローブとボードを買いました。	どこかに向かう時はチラシを持参する。	興味を持ってもらうことが大事だと思う。自分があきらめず、いつも実演しているつもりで体を動かす。	
50	5		まだうまく職場や地域の為実践して取り組んでいると報告できることができていません。	今回動画を録画したので、スタッフみんなで勉強会のようにして見ていきたい。	まずは、抱え上げない介護を知ってもらう。現在の職場では、スタッフがボードやシートなど言葉や使い方を知っているか、同じ介護職の知り合いは抱え上げない介護の言葉も意見も知らない人がいたので、いろいろな形で知らせていきたい。	
51	5		小委員会の立ち上げから他職種も取り込んで、活動するように調整してます。	11月研修。情報発信から。	仲間を増やしていく。ものを整えられる環境を作る。	

52	5		あたりまえケアネット	施設単位ではなく、地域単位で動きを作る。	文化の改革。○×の判断。	社会変化に即したケアの概念。
53	4		不定期で復習会	各地区での勉強会	リハ職(PT,OT,ST)へのレクチャー	
54	4		職場の人への情報提供		抱え上げない介護の必要性の理解を広める	
55	4		施設内の研修会でシートやグローブの使用 方法について行いました。	実際に使用していけるようにしていきたい経験を 積んでいく。	福祉用具を使うことが手間だという意識を変えてい きたい。	
56	5		施設長(Dr.)参加の研修会を開催し、普及 活動を行っている。	研修会のアンケートを看介スタッフと協力し集計 後、ボード、シート等の必要数を出していく。	アンケート結果などをトップへ提出し、説明を行う。 理事会などへも広めてもらう。	地域に分かれての発表だったが、方法 の統一ができていないように感じまし た。
57	3		福祉用具の使用	定期的な勉強会を実施する。知識、技術を習得 する。	システム(業務全体)を見直さなければならない。	
58	5	技術の細かいことはまだまだ	院内で研修を受けた看護2名、看護管理 職1名、およびリハ職2名(私含め)で、院 内(病院管理職をはじめとして)の理解を 得る。そして、院内の方針として打ち出し、 研修し、スタンダードにする。	研修を受けたものが、まずは、病院管理職に理 解をしてもらうための策を練るところ。	なぜ、従来のものが悪いのか、本当に理解して危 機意識をみんなで共有したい。	
59	5		職場で抱え上げない介護を実践できるよ うにする。	月2回勉強会を計画している	抱え上げない介護を理解している人を増やしてい く。	
60	5			関わりのある事業所へ伝えていきます	2度目の研修参加なので、研修に参加し勉強してい きます。	
61	4			全職員に啓もう活動します。意識調査をしていき ます。	意識改革	今まで受け身の勉強をすることと、人 に教えるということの違いがよく分か りました。ストレスになりましたが、視 点が違うことで、実践も変わってきたと思 います。
62	4		職場内でリフトやスライディングボードの使用 方法の指導(介護スタッフに対して)	リフトやグローブの使用があまりできていないの で、施設内のスタッフみんなが、使用できる環境 を作りたいです。	介護を長くしている人達が、これまでと違うやり方を 理解して、現場を変えていくこと。	
63	5		ケアマネさんや家族の方、その他ケアス タッフや訪問介護の方に少しずつ現場で 伝えている。	自分の所属している病院、施設で、まずはシート やボードを適切に導入できるような体制を作っ ていく。また、その後は関連施設にも広げていく。 まずは病棟の看護助手さんから変えていきま す。	まずは、「抱え上げない介護技術」を知ってもらうこ とが必要。	
64	4		病院全体で取り組むことは現状難しいた め、まずは、自分の担当患者様などの身 近な所から実践していき、「抱え上げない」 ことの共有を図っていきます。	院内での福祉用具の勉強会、用具の正しい使い 方など	他職種の意識改革、抱え上げないことをみんなが共 有認識していく。抱え上げないを体験した職員の意 見を拾い上げていく。	
65	—		シート、ボードを導入。特定の利用者への 使い方を提示して使用してもらっている。 地域ケア会議やケアマネの研修会で、 シートやグローブを持ってもらって情報を入 れている。	職場内でシート、ボードの体験会を企画してい る。シート、車いす(はねあげ)、ボードの数を増 やす。リフトはレンタルからでも試用してみる。	利用者に与えている苦痛についてまずはわかって もらわないと・・・	
66	4					
67				これから久留米地区の活動を考えていきたいと 思っています。		
68	2	スライディングボードの使い方はもっと 練習しないと難しいです。	リフト入浴	特になし	今までの介護の仕方を見直す機会	
69	4		会社での研修会、グローブの全員携帯。 福祉用具の積極的使用(ユマニチュードと の共存)	会社のイベントでブースを作る。各事業所で常に 伝達を進めていく。	福祉用具の必要性や成功体験をとって実感する 事。率先して使い続ける。	
70	5		職場ではノーリフトを掲げてやっているが、 一人一人のスキルアップに取り組む	新人職員を教える中堅職員のスキルを上げるこ とで、なぜノーリフティングポリシーが必要な のかを落とし込み	コーディネーターとして、その人を変えるのではな く、周りから変えていく必要がある。	

71	4		勉強会	メンバーの知識、技術の習得		
72	4		福祉用具必要者に対して忙しい時であっても、抱えないよう安全に移乗を行うようにしている。	一人でもよいので抱えない介護を行える同僚を探して輪を広げる。	正しい知識、なぜ抱えない介護が必要なのか	
73	4		シート、ボード、グローブの使用。			
74	4		職員の腰痛、ご利用者の負担を少なくできるよう、スライディングシートを取り組み始めたばかりなので、多職種が使用できるよう指導をしたり、していただいたりしています。	1年後には多くのご利用者にシートを使用できたらと思っています(他職種)	全員(全職種)が同じ方向・目標を向いて仕事をする。(ノーリフト、抱え上げない介護に対して)	
75	4			実際に現場でお客様に対して介助する	他の職員に必要性を知ってもらい取り組んでもらうこと。	
76	4	時間が足りなかった。	専門的な外部講師を招いての技術研修。職場内で抱え上げない介護チームを作り、職員へ広めている。	抱え上げない介護をやらせるのではなく、それをするための目的をしっかりと伝える。	「自分ひとり」「自施設だけ」ではなく、地域資源を活用する。	
77	4					何度か研修に参加させて頂いていますが、職場(業務で実践できていない)ことでせっかく受けたのに介護技術を忘れていた自分がありました。
78	4		職場内での研修と、なぜ用具を使用するのかなどを話し合いを行い、機器の導入を行っています。	事業所一か所だけではなく、会社全体に広める。グローブの使用は誰でもできるようにする。	他職種との関わりや連携、お互いの意見交換などを行い、抱え上げないについて考える。	
79	4	進行スピードがやや早かった	各事業所との情報共有(一人一人の利用者様の状態)	リーダーを中心とした施設内での勉強会	拡散する方と介護道具の充実。定期的な勉強会。	
80	4	実技がいまいちできてない	特にありません。自分も良くできないので。	福祉用具を活用したいです。		
81	4	初めての实技だったのでなかなかうまくできなかったです。		今日したことを自分なりに明日してみようと思います。聞いてできそうではなかったのも、また、セミナーに参加します。	もっと多くの人にセミナーを聞いてもらえたらいいと思います。	
82	4		病棟スタッフへの啓もう		何回も研修をしていくこと。研修参加者を増やすこと。	
83	5		研修会、上司への提案	チーム佐賀で地域に広めていく。自分の病院で抱え上げない介護を浸透させる	職場、地域のつながり、チームワークの強化	
84	4		グローブの導入(現在では有効性や使用方法を知ってもらうため)	特に介護度の高い方に対する「かかえあげない」方法を見つけ、その指導、情報の共有(まずは自分の施設)	グループの方向性や具体的なマネジメントの決定	
85	5		老健、特養、病院でのセミナー活動。在宅でのシートグローブの実践。	熊本でNPO法人の立ち上げ。地域セミナー活動を行っています。	今回はお声かけいただき本当にありがとう。各地域のまとまりを見て、うらやましく感じました。熊本で活動頑張っていきます。	
86	4	まだまだ落とし込めていないので、しっかりやっていきたいと思っています。	定例勉強会やセミナーを行い、地域とつながる。	人に伝える力を身につけて行きたいと思っています。	今のあたりまえを変える事(抱え上げ、力任せの介護)	
87	5		研修やリフトデモ等積極的に行っています。	リフト導入、地域での研修会開催。ボード、グローブ、シートの使用法、技術の再伝達。	研修時間の確保。余裕を持った時間の作り方、ケア職のストレスマネジメント。	
88	5		社内の啓発。社外ケアマネの啓発。	市のケアマネの啓発。	県、国の補助(お金)	
	理解度	1. 理解しにくかったこと	2. 実践するための取り組み	3. 具体的な計画	5. 介護を変えるために必要と思うこと	6.その他